

セラフィールド社との協力声明の署名について

■背景

福島第一原子力発電所の廃炉にあたっては、廃止措置作業の経験を持つ海外の事業者と相互に知見を共有することが有益だと考えている。

この度、より安全で着実な福島第一原子力発電所の廃炉作業に向けて、原子炉や廃棄物関連施設の廃止措置に取り組んでいる英国セラフィールド社と、運営・技術両面に関する情報交換を行うことで合意し、今後、正式な情報交換協定の締結を行う予定であるが、締結に先立ち、協定の意義・目的を記載した協力声明に署名した。

■協力声明の署名式概要

- 日時：2014年5月1日（木）16:30頃（ロンドン夏時間）
- 場所：ロンドン大学（University College London）South Cloisters
- 先方：セラフィールド社最高経営責任者 トニー・プライス氏
- 当方：福島第一廃炉推進カンパニーCDO 増田尚宏
- 内容：東京電力福島第一廃炉推進カンパニーおよびセラフィールド社との間の情報交換協定締結に向けた、意義・目的等の確認。
（内容については次ページ参照）

本署名式は、日英原子力及び低炭素協カイベント（仮訳、英名：UK-Japan Nuclear and Low Carbon Cooperation Event）の中で実施された。

セラフィールド社との協力声明の署名について

■協力声明署名式の様子



左上写真：左上：エドワード・デイビー エネルギー・気候変動大臣、
右上：安倍首相、
左下：トニー・プライス最高経営責任者、右下：増田尚宏
右上写真：左：トニー・プライス最高経営責任者、
中：ステファン・ヘンウッド英国NDA会長、右：増田尚宏
左下写真：左：トニー・プライス最高経営責任者、右：増田尚宏

セラフィールド社との協力声明の署名について

■ 協力声明の内容（情報交換協定の目的・意義）

< 協定の目的に関する項目概要 >

- 放射性廃棄物管理、除染、廃炉に関する情報の共有：
互いのサイト（福島第一原子力発電所、セラフィールド）の視察、
情報・報告書の共有等各種活動の実施
- 両サイトで類似する課題に関する知見を学び合うことによる、双方のサイトでの
目標達成への貢献
- 情報交換協定の有効性の継続的な評価の実施

< 協定の意義に関する項目概要 >

- 情報交換協定を通じた、関係協力会社の認知の拡張
- 情報交換協定を通じた、事業者と市民社会とのつながりの強化
- 協力活動に対する英国原子力廃止措置機構（NDA）からの支援強化
等

セラフィールド社との協力声明の署名について

■ 声明に対する福島第一廃炉推進カンパニー C D O 増田尚宏のコメント

この度、日本に先立ち、ウィンズケール原子炉の廃炉や、放射性廃棄物保管設備の廃止措置、放射性汚染水の漏えい事故処理を経験し、廃止措置・汚染水処理に関する最新鋭の知見を有する英国セラフィールド社と、情報交換協定締結に向けた協力声明を署名することができたことは、大変有意義なことだと考えており、日英両国、英国原子力廃止措置機構（NDA）、セラフィールド社を初めとする関係する方々に感謝申し上げます。

今後、セラフィールド社とは、両社が共通して取り組んでいる課題に関して互いに活発で開かれた情報交換を通じて、双方のサイトがより安全で着実に廃止措置を進めていくことを期待している。

< 参考 > セラフィールド社との関係・保有技術について

■東京電力とセラフィールド社との関係（年譜）

1970年代：セラフィールド社の前身である英国核燃料公社(B N F L, British Nuclear Fuel Ltd.)に対する使用済燃料の再処理委託を開始。

2012.4.10：日英両国首相による戦略的パートナーシップに関する共同声明。以降、開催されてきた両国政府間での年次対話や、大使館主催の日英ワークショップ等を通し、セラフィールド社とも情報交換を実施。

2012.12～2014.4

：事故以降4回に渡り、当社原子力部門がセラフィールドサイトを訪問し、廃止措置の現場作業状況を視察すると共に、経営幹部や技術者との意見交換を通じ現地の廃止措置作業や廃棄物取扱いの戦略等について情報を得てきた。

2014.5.1：協力声明への署名。

■セラフィールド社の保有する技術・知見について

- 放射能漏えい事故（INES-5）を起こしたウィンズケール原子炉の廃止措置に取り組んでいる。
- 発電設備以外にも放射能漏えいリスクの高い設備を保有しており、その廃止措置及びリスク軽減対策に取り組んでいる。
- 汚染水の土壌への漏えいも経験している。